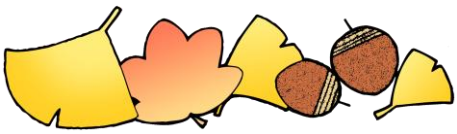
図書館と市民をつなぐ会・相模原　　2021 年 8 月 30 日　第 27 号

図書館ひろば



「調べ学習講座」が開かれました

2012 年から続けてきた「調べ学習講座」は、2020 年は開催できませんでした。ここ 2, 3 年、リピーターも多く、こうしたイベントを継続することの大切さを感じていたところでしたので、とても残念でした。

今年度は、コロナ感染症はまだ落ち着いてはいませんでしたが、図書館と一緒に万全の準備をして、開催する運びとなりました。参加者の定員は橋本図書館の研修室、市立図書館の中集会室ともに収容人数の半分以下にしました。さまざまな制約のある中で申し込みがあるのか心配でしたが、嬉しいことに、7 月 1 日、「広報さがみはら」や図書館 HP・SNS、つなぐ会の HP の告知を見て、多くのかたがご応募くださいました。7 月 3 日には市立図書館、10 日には橋本図書館午後の部が定員となり、受付を締め切りました。

7 月 24 日（土）橋本図書館の講座「ネットと本で調べ学習体験講座」では、小学 1 年生から 5 年生までのお子さんが参加。講師の説明を聞いたあと、「こどものほんのコーナー」の本棚から気になる本を手に取りながらテーマを決め、資料を探して研修室へ持ち込みました。インターネットで調べるお子さんもいます。本の写真をコピーしたり、調べたことを小さなカードに記入したり、イラストを描いたりして、台紙にどんどんまとめていきました。ステキなオリジナルとかげ図鑑ができたお子さんは、家で飼っているとかげのことを調べたと見せてくれました。書きたいことが次々に出てきて、時間が足りず完成できなかったお子さんもいました。7 月 25 日（日）の市立図書館の講座「図書館で調べて、新聞を作ろう！」では、小学 1 年生から 4 年生が参加。最初に講師が新聞の見出しのつけ方などの説明をしました。そしてなんと、参加者全員調べるテーマが決まっていた！ビックリ！　早速児童コーナーに行って、検索機を使ったり、サポーターに本の場所を聞いたりしながら、調べたいテーマに関連する本や雑誌を探しました。

新聞を作っていく手順を講師から聞いたあと、台紙に調べたことをまとめます。今年も低学年のお子さんが多かったのですが、保護者のかたと一緒にどんどん書いていきます。絵や写真の貼る配置にも工夫しました。

最後に完成した作品をそれぞれ机の上に置いて、参加者みんなで見て回りました。そして読んだ感想を付箋に書いて貼ました。たくさんの感想付箋は自分の作品と一緒に持って帰りました。

今回も、「大好き」「なんでだろう」から「調べてみたい」になる瞬間をたくさん見ることができました。子どもたちの集中力と探究心に元気をもらった 2 日間でした。

参加者の皆さまには、入室時の検温や消毒、事前の健康状況についてのアンケートにもご協力いただきました。皆さまにご理解いただき、無事に開催できてホッとしています。　（中塚）

未来を担う子どもたちの健やかな成長のために、図書館相武台館は存続するべきと考えます

令和３年１月は、新型コロナウイルス感染予防対策として分館利用が制限され、１年近くおはなし会も「おはなしバスケット（以下バスケット）」の活動もできない時期でした。友人から「分館が無くなると新聞に出ていた」と聞いて、「行財政改革案における分館廃止」とパブリックコメントの募集を初めて知りました。急きょ分館隣接の新磯野公園にバスケットのメンバーで集合して、寒さに足踏みしながらそれぞれの思いを吐露。話合いを重ねた上グループとして、また個々に分館存続への思いをパブコメとして提出しました。

思いは署名活動にも広がりました。グループで署名文書を作り、活動先である近隣の小学校や幼稚園、保育園、児童クラブへ、また知人には直接、市内遠方の方には返信封筒を入れて協力をお願いしました。限られた時間でしたが、他のおはなし会グループや家庭文庫・図書館に関心のある方々まで広がり、917筆の賛同を戴きました。「子ども達の為にも図書館を無くしてはいけない！」とお手紙も沢山戴きました。同時に署名活動を始めていた「相武台地区自治会連合会」と連携を図り、つなぐ会の山本会長やＮ市議会議員さんからアドバイスをいただきながら、3月25日　自治連合会長と共に相模原市長にお会いして「要望書と署名」を手渡し「存続」をお願いしました。6月16日　相模原市立図書館長より「要望書の回答(5/28付 相模原市長名)」を受け取りました。

回答書には「令和９年までを目途に施設を廃止し、相武台地区における公民館や学校などを活用した図書室機能の確保を検討する。図書室機能の確保にあたり、市民の皆様の意見を丁寧に伺い、検討を進める」とありましたが、今後の具体的な検討内容や方針に関する情報は得られていません。

私たちの地区における図書館機能は果たしてどうなるのでしょうか。分館がなくなった跡地は有効に活用されるのでしょうか。分館で本を手に取り、新磯野公園で遊ぶ、元気な子供たちを目にするたびに思いを馳せる今日この頃です。私たちはこの疑問を忘れず、分館の今後の動向についてしっかり見守っていきたいと思います。

（冨永ナル子）

【「おはなしバスケット」のパブリックコメント】

「おはなしバスケット」の思いの詰まったパブコメ（一部抜粋）を掲載させて戴きます。

新磯野のグリーンパーク建設を機に地域の母親たちによる誘致運動が実り、本館についで設立された図書館相武台分館は、一昨年で40周年を迎えました。子どもたちに読書の楽しさを伝えたいと集まった有志が当時の館長に思いを伝えて、分館における絵本の読み聞かせが始まり、私たちボランティアグループおはなしバスケットが図書館と共催でおはなし会を企画、運営してまいりました。今年度、新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となっていますが、8月を除く毎月第１第３水曜日に、午前・午後２回のおはなし会を40年以上、一度も休まず続けてきました。

定例のおはなし会の中でも、7月、12月、3月の第３週に開催する大きなおはなし会では、舞台を設けて、人形劇や大型絵本を使った読み聞かせ等を特別に企画します。制作や練習等その準備のためにほぼ毎週、分館の集会室をお借りして活動してきました。また、このおはなし会は近隣小学校や、幼稚園、保育園の公演、朝読書など、地域の児童奉仕活動にも発展しています。

（中略）

おはなし会の前後で、保護者同士が情報交換をしたり、ボランティアメンバーと育児の話をしたりする時間も、地域のおはなし会ならではの楽し

みです。本と触れ合った後は隣の公園でひと時を過ごす、公園隣接という立地条件は地域の財産です。

（中略）

その後相模大野に、さらに橋本に図書館が設立され、公民館の図書室も合わせると市内で図書の閲覧が可能な条件は充実しました。インターネット上で予約ができて最寄りの拠点に本を取りに行き、どこでも返却ができる、利便性は向上していると思われます。昨今の貸し出し件数は低下傾向にあるようですが、地域に密着した文化施設としての図書館の役割は、利便性と比較に値するものではないと考えます。特に、相武台公民館には図書室がなく、分館が廃止されると地域住民が図書を利用する機会を失うことになってしまいます。

地域に愛され、地域に根付いた、味のある図書館相武台分館を、廃止ではなく存続してください。少子高齢化時代だからこそ、就学前の子どもを連れた保護者や高齢者が気軽に足を運び、本を手に取ることができる、文化拠点を存続させてください。おはなし会には高齢者の参加も増えました。今後はむしろ、車いすの高齢者でも快適に来館できる、バリアフリー化が望まれます。

未来を担う子どもたちの健やかな成長に寄り添う図書館相武台分館は、今後も必要であり、閉館ではなく、改修や増築などの方向で見直していただきたいと考えます。

（後略）

【相武台分館ができるまで】

1967(昭42)年に相武台団地が建設され、翌1968（昭43）年から団地集会所に県立図書館が運営するファミリー文庫の配本が始まりました。市の図書館は、ライトバンに数百冊の本を積んで、市内のいくつかの配本所をまわる巡回文庫を行っており、その配本所の一つにもなっていました。当時の集会所には、スチール製のロッカーがいくつか並んでおり、週２回図書室として開放されて、貸出や読み聞かせなどが行われていました。とても熱心なスタッフの方々が交代で運営されており、利用者も多く、賑わっていました。

当時、市の図書館は市民会館内にあり、相武台周辺の人たちが気軽に利用できる施設ではありませんでした。そんな折、新しい市立図書館建設が具体的日程に上がり、この機にあわせて1973（昭48）年3月に相武台団地自治会から、市の南西部地域への分館設置の請願書が市議会に出されました。

それ以前から、住友不動産が、新磯野地区に大規模な団地造成の準備を進めており、市との事前折衝のなかで、分館の話も出ていたようです。そうした中で、1976（昭51）年に出された設計概要書に分館用地と建物も含まれていました。そして、相武台地区の皆さんの熱意が実る形で、1979（昭54）年4月に開館しました。

（山本）

【行財政構造改革プラン案について】

相模原市は、子育てや福祉に係る扶助費が増加傾向にあることや、安定的なサービス提供に必要な自治体の預貯金にあたる財政調整基金残高が残り約68億円となるなど、行財政の運営上の課題に直面しているとし、2021年1月、歳入規模に応じた行財政運営を行うことを目的とする「行財政構造改革プラン案」を発表しました。同案には、2021年度から 27 年度までの間に銀河アリーナなど市内27施設の廃止・民間移行や、幹線快速バスシステム（BRT）凍結といった、大規模事業の見直しが盛り込まれていました。歳出削減策として廃止の方向性を示されたのは、プールやアイススケート場として利用されている銀河アリーナ、**図書館相武台分館**、津久井地域福祉センターなど18施設。総合体育館、相模原球場、総合水泳場など9施設は民間や地域へ移管するとありました。

市はこれに対して2月22日までパブリックコメントを実施しました。　（相模原市HPより）

次世代に引き継ぐ
淵野辺駅南口周辺のまちづくり
市民検討会報告　その4

第 10 回は書面開催。

第 11 回 6 月 26 日（土）は WEB 会議。

「相模原市行財政構造改革プランについて」「市民アンケートの結果報告」「今後の進め方」について質疑応答がありました。

検討会メンバーからは「２つの方法でアンケート調査を行ったことの必要性や有用性」「たくさんの自由意見について議論の必要性」「今後の検討会の進め方」などの意見が出ました。具体的には「何を重視するのか、様々な立場の方々の価値観の中で決める際の判断基準や優先すべき方向性がこの時期になっても確立されていないことに不安を感じる」という意見が主でした 。

有識者からは 「今後どこかのタイミングで 、4 つのパターンの概算事業費を出し、その上でどれくらいの規模なら実行可能なのかを市がきちんと提示すべき」「行財政構造改革プランの資料を出しながら、一方では 4 つのパターンを自由に議論してください、という事務局の進め方では意見集約は難しく、いつまで経っても事業として進められない」という講評がありました。

今回の市民検討会の目標は「基本計画を策定するところ迄」で、次期市民検討委員会の公募は 10 月頃に行う予定とのこと。　（矢部）

市立図書館 調べ学習講座に参加して

今回初めて市立図書館での調べ学習講座に参加させていただきました。子どもたちは事前にテーマを決めて参加してくれたので、終始サクサクと進みました。

本を選ぶところから自分で検索機を操り、私たちサポーターに「この本どこにありますか？」と積極的に聞きに来てくれたことに驚きと新鮮さを覚えました。選んだ本をじっくりと読みながらレイアウトを考え見出しを考える姿は、まるで本物の新聞記者のようでした。色画用紙や折り紙・シールを用いて視覚的にわかりやすく作成したり、イラストを描いて目を引くような新聞を作成したり、様々でした。子どもたちはこだわりを持って真剣に作成し、なんて立派なのだろうと感動しました。

「大変だった」と言いながらも笑顔で完成させた子どもたちが多く、とても満足そうで私たちサポーターも嬉しくなりました。感想の付箋もたくさん書いているお子さんが多く、各々その付箋を大切そうに丁寧に持ち帰る姿が印象的でした。

黙々と作成する子どもたちの姿を見て､｢好きへの探求心｣は人間が最も大事にするべきものなのだなと感じることができました。この調べ学習講座を通して何か学んだことがあれば、ぜひこれからの生活に活かしてほしいと思いました。

（古谷明李）

編集後記

調べ学習講座では､このような状況でイベントを開催する難しさを改めて感じました｡それでも子どもたちの笑顔と夢中に取り組んでいる姿を見て､準備のための苦労はすっ飛びました｡市立図書館ではつなぐ会に入会した大学生がサポーターとして参加しました｡感想をぜひ読んでください｡(Y.N.)

図書館ひろば　第 27 号　　2021 年 8 月 30 日発行
〒252-0302　相模原市南区上鶴間 4-23-3　Tel 090-4947-7147（代表　山本）
ホームページ　http://toshokan.org/